

10月28日(土)、令和5年度桃山中学校文化祭が開催されました。コロナ禍も明け、久しぶりの観覧制限のないものとなりました。今年の生徒会スローガン“JUMP”は右のような意味があります。生徒たちはそれを踏まえ、一人ひとりが主体的に取り組んでいました。

「学年発表」「学年合唱」「委員会発表」「吹奏楽演奏」「モザイクアート」「教科・総合文化部展示」と内容も盛りだくさんで、「昨年よりもパワーアップしていて驚いた」「吹奏楽の演奏で友だちがペンライト(ピンク・黄色)を作って振ってくれたのがうれしかった」「担当の係が本当に大変で自分ではよく頑張っていると思っていたけど、他にも、もっと頑張ってみみんなを楽しませてくれた人々がいるおかげで、文化祭やたくさんの行事が成り立っているのだなと深く実感させられる、楽しい思い出に残る文化祭になった」などの声が上がっています。この経験を今後の学校生活や将来に生かせるよう、教職員もサポートしていきます。



小中合同あいさつ運動

11月14日(火)、1・2年生の期末テスト週間中に、新川小・小羽山小・本校で小中合同のあいさつ運動が行われました。本校からは生徒会執行部の生徒・教員を中心に各会場で保護者・地域の方も含めて各会場10～20人前後のグループが、登校してきた児童・生徒に元気なあいさつを投げかけました。コロナ禍の間は声を出すのもはばかれる雰囲気でしたが、生徒会のみなさんに聞くと、呼びかけに対して小学生の大きな反応がとてうれしかったようです。その点、中学生は少し大人になったのか、恥ずかしがり屋さんが多かったような気がします。「あいさつは自分から、遅れたらそれはただの返事！」と某高等学校に掲示されていました。あいさつを気持ちよく行うことは、コミュニケーションの基本です。ちなみに、コミュニケーションを重視している中学校の英語科では、①目を見て②はっきりとした音声で③ジェスチャー・アクション(リアクション)を伴って、と教えています。地域の方もいらっしゃいますので、これからも朝から明るい声が響く桃山地区をめざしていきましょう！

